Bチャレ　チャレンジ部門　実績報告書

団体名	特定非営利活動法人リーブ・ウィズ・ドリーム	**作成日**	3月15日
企画名	防災&福祉まち歩き 防災視点からバリアフリーマップを考え、作る		
あなたが考える文京区の課題	文京区には区が作成している「文京やさしいまちガイド」と社会福祉協議会の福祉マップがWEBで発信されている。この情報だけでは、災害時に避難することが難しい障がい者や高齢者などは自分の住む地域のバリアやバリアフリーについては知ることができていない。		
実施期間	令和5年10月～令和６年２月	**実施場所**	江戸川橋駅周辺
対象者	文京区の防災に興味のある方。移動困難者（障がい者、高齢者、小さな子どもと暮らす家族の方など）と支援者や介助者。大学生や小中学生等		
企画内容	令和5年10月から水害時の避難所を中心としたエリア（関口一～二丁目、小日向台二丁目、水道二丁目周辺）の防災バリアフリーマップを作成する。講習会は全４回おこない、バリアフリーと防災についての講習を受け、実際に地域のまち歩き調査をおこなう。調査結果を地図に落とし込み地図を完成させた。 講習会 １回目：防災アドバイザーによる講習会をおこない、講義の後はグループワーク（ワーク１：災害時の困り事ワーク２：地図にどんな人の視点を持たせるか、どんな情報を掲載するかワーク３：どのエリアを調査するか）をおこなう。 ２回目：バリアフリーマップ作成のための講習会とまち歩き調査。 ３回目：防災まち歩き調査の講習会とまち歩き調査。 ４回目：地図情報の校正と振り返りをおこない情報の共有をはかった。		
参加者の募集方法	フミコムからSNSを利用した情報発信・リーブ・ウィズ・ドリームホームページ掲載・チラシの配布、大学への募集、リーブ・ウィズ・ドリーム協力団体（大学のボランティアサークル・企業・任意団体）への呼びかけ		
協力した団体・個人	民生児童委員、古川松ヶ枝町会、関口町会、関水一丁目南部会、小日向台町小学校、東京ボランティア・市民活動センター、中井康博様（シャンティ国際ボランティア会）、杜の癒しハウス文京関口、法政大学・日本女子大学・拓殖大学の学生ボランティア、企業ボランティア、なかの生涯学習サポーターの会		

助成申請額/事業総額	200,000/301,412		
費用内訳《当初予定》	品目	金額	備考
	講師謝金	28,000	@28,000円×１人
	スタッフ交通費	9,920	420円（往復）×2人・4回 820円（往復）×2人・4回
	まち歩き調査キッド	12,000	@3,000円×4組
	印刷費１	15,000	講習会チラシ作成・印刷 講習会資料印刷
	印刷費２	25,000	防災バリアフリーマップ印刷(500部・カラー4色)
	文具	3,000	講習会用筆記用具等
	元地図購入費	22,380	国土地理院地図
	郵送料	4,250	完成地図発送費（参加者等）@170円×25人
	地図作製費	95,000	イラストレーターによる地図作成
費用内訳《結果》	講師謝金	30,000 5,000	@30,000円×１人(講習会) @5,000円×1人(小学校)
	地図監修費	30,000	@30,000円×１人
	スタッフ交通費	21,090	延べ40名
	まち歩き調査キッド	12,000	@3,000円×4組
	印刷費１	15,000	講習会チラシ作成・印刷 講習会資料印刷
	印刷費２	21,960	防災バリアフリーマップ印刷(500部・カラー4色・折り代・入稿手数料込み)
	文具	2,975	講習会用筆記用具等
	郵送料	4,547	完成地図発送費（町会、小学校、ジョージ防災研究所、講習会協力者、フミコム）
	会議費	1,200	防災まち歩き講習会、調査事前打ち合わせ(3名 1回)
	保険代（行事保険）	4,340	@62円×20人＝1,240円×4回＝3,720円　@62円×10人＝620円

	地図ホームページ掲載	52,800	リーブ・ウィズ・ドリームホームページ掲載
	地図表紙デザイン料	5,500	地図表紙デザイン
	地図作製費	95,000	イラストレーターによる地図作成

企画の成果	1.当初想定していた成果に対して、達成度合いは10点満点中、何点ですか。その理由も含めて記載してください 達成度合い：10点満点中９点 減点：想定した参加者に障がい者などの当事者がいなかったことが減点理由です。 成果：参加者が防災やバリアフリー視点を持てた、自分の経験を周りに広げたいと思って頂いた事、地域との繋がりができたと。 １．自分が住んでいる地域の防災設備や施設を意識でき、今後は地域の人々にも教えてあげたいとの声を頂いた。 ２．まち中を車いすに乗って調査活動をおこなったことで移動の難しさがわかった、声がけをすることの重要性を認識できた。 ３．区外の参加者から「地域の繋がりが深く防災設備の充実がありうらやましい、自分のまちもこのようなまち歩き調査を行いたい。」などの感想を頂いた。防災やバリアフリー視点のまち歩き調査の必要性がわかった。 ４．町会長から地元の小学校を紹介頂き、小学校４年生の児童とまち歩き調査をおこなった。小学校では地元に役立つ活動で子供たちにも地域との繋がりができたとの声を頂いた。
	2.企画を行なってみて、初めて気付いたこと、改めて確認できたこと。 ・普段から防災という観点に注意して生活しているといざというときに助かると思うのでそのような考えを家族や友人にも話してみたい。地域の防災設備は充実しているが、利用方法を知っているか疑問。土地の特徴を知らずに避難する場合、その途中でバリアに気付き避難が難しくなる。等の意見から→日頃からハザードマップ・バリアフリーマップを利用したまち歩きする重要性。まずは防災やバリアフリーについて知る、周りに広げる事が大切だと確認できた。 ・地域町会やボランティアへの呼びかけから始まり、町会からの呼びかけにより地域小学校が参加するなど線から面に繋がりが広がったこと。

	3.あなたの考えた課題は“文京区の課題”と言えそうですか？ 回答：はい 理由： 文京区内でも地域によって土地の特徴、防災やバリアフリーに対する意識、防災設備等が違っている。地域毎で防災・バリアフリー調査を行うことで地域特徴（良いところ危険な場所、強みや弱み）を確認できる、参加者同士で防災やバリアフリーについて話し合いをすることで気付きや繋がりができる。パソコン・携帯画面で発信された地図とは違い、自分たちの手でまちの情報を収集し、実際に地図として作り上げることで、自分事とすることができる、皆で地図広げて話し合い情報共有できる、防災意識・バリアフリーへの関心を高めることができる。今後は、小さなコミュニティから文京区全体へ活動を広めることが必要。

※追加別添１：この事業を通じて制作したチラシなどのデータ
※追加別添２：この事業の様子が分かる公開可能な写真データ（10枚以内）